


様式(細則 5-2)

令和 2年 11月 20日

浜田市議会議長
川神 裕司 様

議員名 柳楽 真智子  印

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 2年 11月 9日(月) 10:00 ~ 11:00
2. 視察内容 母子手帳アプリと子育て支援について
3. 視察先 益田市福祉環境部子ども家庭支援課
職員名：盆子原課長・山崎係長・福原主任
4. 調査経費 586 円
(経費内訳 ガソリン代 586 円)
5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



福祉環境委員会の研究テーマである子育て支援策について、母子手帳アプリの導入をされている益田市に伺い、福祉環境部子ども家庭支援課の盆子原課長・山崎係長・福原主任から、アプリの活用状況やそのほかの子育て相談体制、情報提供の方法などの説明をしていただきました。

○提携アプリ

株式会社エムティーアイの「母子モ」を活用されている。

○機能について

子どもの成長記録。（身長・体重のグラフ化）

妊婦検診・乳幼児健診・予防接種の記録や、スケジュール管理ができる。

市からのお知らせや検診のお知らせ、地域イベントの案内。

（出産予定日や生年月日、住んでいる地区等を指定して通知することが可能）

法改正があれば、自動的に更新してくれる。

児童館・保育所・医療機関等の施設情報の修正。

アンケート機能がある。

予約受付機能があるが、登録がニックネームで個人の特定ができないため、別途連絡が必要になるので使用していない。

アプリにリンクが貼れるので詳しいサイトに繋がられる。

○予算について

人口規模により利用料金が決まっている。

（益田市の場合は月額 50,000 円（税別）で、導入時の追加費用等はない。名前の登録などオプションを追加すると、導入時や月額の利用料が別途発生する。

○利用状況について

平成 30 年 11 月の開始時は 26 人だった登録者が、令和 2 年 10 月 31 日時点で 348 人に増加している。

年齢が上がるにつれて、利用頻度が減少する。

○育児相談機能について

母子モの基本機能としては、アプリを使用した相談等はできない。オプションとしてテレビ電話を活用したオンライン相談を受け付けるシステムもあるが、別途費用がかかる。

（初期費用 30 万円、利用可能通話時間が 年間 480 時間 12 万円、
年間 960 時間 24 万円、 年間 1440 時間 36 万円）

益田市では対面の方が有効だと考えているので、導入は考えていない。

○利用者の評価について

これまで直接利用者から意見を聞いたことはない。

今後、母子モのアンケート機能を使って評価を行いたいと考えている。

○アプリ導入後の成果について

乳幼児健診の予定を早めに通知することができる。

プッシュ通知（アプリを使用していなくても、画面上で通知があることを知らせる機能）を行った日は、アプリの利用者数が増えることから、見てもらえる効果は大きい。

イベント案内など周知に限られるものでも、利用者は知ることができる。

スピーディーに情報発信ができる。

○課題について

利用者の評価を行うことが必要。（利用者、職員）

町内で情報共有を行い、情報発信に繋げる。

利用率の低下。（登録当初は利用されるが、子どもが大きくなるにつれて利用が減少するから）

所 感

子育て中の保護者から意見を伺う中で、乳幼児健診や予防接種の通知文書をもらっても、忘れてしまうことがある。子育てに関する情報をスピーディーに得たいなどの声がありました。検診や予防接種をプッシュ通知で送られるので、意識しやすくなることや、子育て支援事業の紹介やイベント情報、公園の場所など様々な情報の提供ができることは、子育て世代や家族に安心感を持っていただけると考えます。紙媒体のものと併せて、子育て支援アプリとしての導入を訴えていきたいと思えます。